## 令和２年度　第２回　北区民まちづくり会議開催結果

**１　日　時**

令和３年３月１６日（火）午後６時３０分～午後８時３０分

**２　場　所**

北区役所本庁舎３階　大会議室

**３　出席者等**

別添資料１のとおり

**４　概　要**

１　開会

２　区長挨拶

３　議題

・次期北区基本計画（案）について

４　閉会

**５　摘　録**

〇事務局

ただ今から，令和２年度第２回北区民まちづくり会議を開会する。開会にあたり，武田区長から一言挨拶を申し上げる。

〇武田区長

本日は，ご出席いただきありがとうございます。昨年１２月にまちづくり会議を開催したが，本日はその時に頂いた意見を踏まえた北区基本計画の修正版についてご意見を賜りたい。北区基本計画は元々多くの区民の皆様の意見を基に作ってきたが，京都市の行政計画としての側面も追加している。本日頂いた意見を計画案に反映させ，４月からパブリックコメントを実施し，８月の完成を目指す。本日は忌憚のない意見をいただきたい。

〇事務局

１２月の会議では，次期基本計画の検討状況をご報告した後に，１０のライフステージ等ごとの取組の部分について，ワークショップ形式にて議論を進めていただいた。本日は，そこで出たご意見・アイデア等を基に作成した次期北区基本計画案について，ご意見を頂戴したい。

なお，本日いただいた意見を反映したものをもって，４月６日から５月１７日までパブリックコメントを実施したいと考えている。それでは，進行については，本会議の座長である志藤先生にお願いしたい。志藤先生，よろしくお願いします。

〇志藤座長

お手元の次第に従い，進行させていただく。議題「次期北区基本計画（案）」について，事務局から説明をお願いする。

○事務局

資料４　次期北区基本計画（案）
資料５　次期北区基本計画策定に向けた今後のスケジュール（予定）　により説明

○志藤座長

ただ今説明のあった提案について，発言をお願いしたい。

まず私から発言させていただくが，１０ページ１２番目の「北区の特色ある産業をいかした活力あるまち」の主な取組のところが写真だけになっているが，ここに何か入れる予定はあるのか。

○事務局

特に予定はなく，これで行こうと思っている。代表的なものを３つ挙げているが，これらの他にも何かあれば参考にさせていただきたい。

○谷口委員

７ページ目標４番で，「町内会加入率などの減少が続いており」とあるが，これはどの地域でも問題になっている。働き方が昔と変わってきたので，町内会に入っていなくても自分たちでやっていけるという若い方々がたくさんいるが，「ワーク・ライフ・バランス」ということで，仕事だけでなく，家庭はもちろん，地域のことも大事にしていくというような，若い人向けの一言を入れていただけたら分かりやすい。自分１人だけではなくて，まち全体で観点を共有しながら取り組んでいきませんかという発信をしていただきたい。

ＳＮＳで発信していくとあるが，どのように発信していくか。若い方はＹｏｕＴｕｂｅをよく見られると聞くので，様々な手法を駆使していただきたい。

○寺田委員

３３ページの北区まちづくりプラットフォームは面白くて良いと思う。６つのリーディングプロジェクトの中にある地域インフルエンサー発掘ともリンクする。それぞれ，学区や団体でもホームページやＳＮＳ等を使って情報発信しているものともリンクして，いろんな情報がここへ集まるようにできたら良い。北区役所だけで発信するのではなく，大いに利用していただけるように設計していただきたい。北区ってこんな良いところだと思えるようなプラットフォームをつくっていただきたい。

○國安委員

とても読みやすくなったが，色味の使い方について，配布する対象者によっては見えにくい部分があるかも知れない。赤字に黄色のラインがよく使われているが，高齢の方がはっきり見えるのか分からない。弱視の方のことを考えるとこの色味は考えた方が良いかと思う。

○事務局

広報，ＰＲとしては，市民しんぶん，ホームページ等区役所が有するあらゆるツールを用いて展開していく。また，ＳＮＳについても，最近区役所では新たにＩｎｓｔａｇｒａｍも

開始したところであり，積極的に活用していく。今後も様々なチャンネルをフル活用して，区民の皆様方に基本計画を知っていただきたい。また，基本計画を広めていくためには，地域インフルエンサーなども含めて，ぜひとも地域の皆様方の力もぜひお借りしたいと考えている。特に，ここにいらっしゃる皆様方は，それぞれの部門のリーダーの方ばかりであり，是非ともお力添えをいただきたい。区民の皆さんと共に，一丸となって基本計画を推進していきたい。ユニバーサルデザインについては，検証をしてクリアできていると考えるが，ご意見を踏まえて再度点検し見えにくい点はなくしていく。

〇水田委員

全体的にはすごく良いと思う。「まちはこんなことに取り組みます」と書いてあるが，「まち」の主体は何か。おそらく住民だと思う。まちはこんなことに取り組みますということで，アクション１，２，３とあるが，多くの住民が本当にこういう取組に積極的に参加してくれるのか不安がある。

北部山間地域に住んでいるが，地域外の人と関わりながら取り組むのが良いと思いやっている。しかし，地域住民が本当にそのことを望んでいるのか，不安になってくる。振り返って，誰も来てないこともある。地域住民たちにも，他人事ではなく，関わってもらえるようにするのがとても大事である。

社協の活動でも積極的に参加していただける方は，なかなかいない。一部の人たちが一生懸命やっている現状で，まちはこんなことに取り組みますと言われると，プレッシャーを感じる。もっと色々な人たちとどうつながっていくのか，どう巻き込んでいくのかが大事な視点である。

若い世代のまちや暮らしへの関わりが減ってきている。自治会にも入らない，やめていく方が多いが，地域の中での活動はとても大事だと思う。そこでの暮らしのことを自分事として考えるというニュアンスを，もう少し出していただければありがたい。

〇寺田委員

今の話は，地域で活動されているリーダーの方が切実に感じておられることだと思う。今までのように地域活動をされている各種団体の方たちだけでまちをつくるというのは，もう限界が来ている。７ページの「区民主体で取り組む地域活動のあるまち」の主な取組では，紫竹学区のＳＰＡＴの取組が記載されているが，いわゆる既存の自治活動とは違う活動。若い人が集まって，それがどこかの各種団体の活動にもつながっているという，そんな関係性がある気がする。地域活動は必ずしも各種団体だけがやるわけではなく，色々なグループが様々なことに取り組んでいる。昔，紫野学区のホームページをつくったときには，もうちょっと自由に地域の面白いところを全部載せようという，従来とは全然毛色が違うホームページができた。

情報発信するときに，私的活動や営利活動を入れられるか。行政のプラットフォームの中に営利活動につながるような，例えば「ここのコーヒーが美味しい」というようなことを入れられるのか。それがないとリアルではない。そういうものがとても大事で，そこに，盛り上がっている感や参加感が出る。その辺の営利活動の載せ方もプラットフォーム，インフルエンサーを考える中でご留意いただきたい。

○白瀧委員

私は，市政協力委員連絡協議会の世話人をしているが，元々自主防災会をやっていた。やはり必要なのはいかに住民を巻き込むかということ。地域でまち歩きを行い，感じたことをハザードマップに落とし込むような取組をしているが，それらを発信するのにホームページがあったら良いと思う。自主防災会では，要配慮者や高齢者の方への対応がこれからの課題であるが，社会福祉協議会や民生委員なども含めて一緒に活動していかなければいけない。空き家の増加だけでなく，孤立死が増えていることも不安に感じている。

○平元委員

４ページの「私たちを取り巻く環境」の厳しい財政状況というところを見ると，将来のことも含めて不安になってくる。いろんな団体が，厳しい財政状況だからこそ連携してということが書いてあるが具体性がない。例えば商店街の取組や観光客が訪れるといった経済的にも潤うようなところを見せていかないと，計画を見た人に不安が募るのではないか。

先日，船岡山活性化の取組で区役所がマルシェをされたが，やはりそういうものを求めて市民は集まってきたり，期待している部分が大きいと思う。どこまで発信できるか分からないが，そういう明るい内容も具体的に見せていく必要があるのではないか。冒頭で不安な要素が多く記載されていたので，暗く不安な気持ちにならないように改善できればと思う。

○水田委員

それぞれの地域の中で活動されていることはたくさんある。例えば中川学区では，古くから飲まれているお茶があり，それを残していくために地域の皆を巻き込もうとしている。お茶をビールに加工し，地域外の学生，地域内の人を巻き込みながら新しい動きになっている。そういったことも１つの地域の力だと思うし，基本計画にもどんどん載せていってもらえれば，皆を巻き込むことにつながるかもしれない。どう巻き込むのかを本気で考えていかなければ，お題目だけで終わってしまうかもしれないので，文言にも気を付ける必要がある。

北山３学区の中では，防災に関して，自治会，社協，自主防，地域包括支援センターも含めた情報共有に３年程前から力を入れている。このように，地域内に閉じない形での活動を広げていくこと大事である。

情報発信についてだが，廃屋ばかりを映しているＹｏｕＴｕｂｅｒがいて，中川では北山村の風景は一切映さず，細い山道，家の間にある山道のところで廃屋になっているようなところを映していた。住んでいる者からすると防犯の面で心配がある。情報発信はある意味で恐ろしい。一歩間違えば，ダイレクトに危ないこともある。たくさんの情報の中で，情報を受け取る側が見る目を養っていくことも大事だと思う。

団体を超えて，地域を超えて連携できることは連携していこうとするニュアンスが大事である。情報を丁寧に伝えることはすごく大事。難しいとは思うがその辺が大変気になった。

○中谷委員

３点ある。全体のコンセプトに掲げている北区独自の１８番目の目標がＳＤＧｓに付け

加えてあるが，人口減少は１１番目の目標と結びつけて理解していくというのが多くのケースであり，政府でもそういう使い方をしている。１８番目として北区独自に立てるということの経緯とロジックを確認しておきたい。２点目は，単に見た目の問題かもしれないが，１４ページの子ども世帯と，３２ページの外国から来た人，この２つのページのアクション０３の下部が少し空いている。項目が５つで他より少ないからだと思うが，１４ページのようにスペースを目立たないようにした方が良いのではないか。３つ目は２５ページの子育てする人の右下の吹き出し「地域全体の子育て意識の向上により，子育てに優しいまちになるかも」について，良いと思うのだがこれは願望の表現である。本来は，願望ではなく「こうでなければいけない」という姿だと思うので，表現を工夫できないか。

〇志藤座長

連携していく仕掛けをどうつくっていけるのかという水田委員の話については，団体だけでなく個人，商店，事業主ら様々な主体が関われるような表現を盛り込んでいくと良いという話である。２つ目はテクニカルな問題だが，特に１８番目の目標がこうなった経緯は，確認をした方が良いと思う。また，子育てのことも確かにそのとおりであり，表現の工夫ができるか。

〇事務局

１８番目の「人口減少に立ち向かう」は，京都市全体として大きな課題として捉えているところであり，北区は関係ないというわけにはいかない。区基本計画のどこかには必ず「人口減少」というキーワードを入れておきたいということで，入れ方は色々考えられる中，北区独自でＳＤＧｓの１８番目に加えるというのが，区民の皆様方により響くものではないかという考えでこのような記載をしている。

〇中谷委員

基本的には良いと思うが，ＳＤＧｓは非常に包括的，包摂的な目標である。全世界に対して２０２０年から３０年までの１０年間の目標であり，そこに包摂されていないものがない目標として出来上がっているのが基本的な考え方である。例えば，京都市が独自のＳＤＧｓをつくって出しているというのであればまだ理解できるが，北区というエリアの中で，特にこれを出していくということなので，それに関する説明がほしい。わざわざ北区としてこれを入れているという意味を示すものである。５ページの上のところに書いてはあるが，なぜ北区かという記述があった方が良い。

〇武田区長

記載方法について検討させていただく。ＳＤＧｓは確かに全て包摂しているが，北区でも人口減少について，非常に危機感を持っている。京都市全体の課題ではあるが，あらゆる取組を通じて，人口減少に立ち向かうことで，北区の活力を維持するところに重点を置きたいという思いがあった。

〇髙奥委員

全体的に非常に読みやすいと思う。先ほど，「まちが取り組むこと」という部分について

プレッシャーが掛かるという話があったが，私には全然掛からない。まちというのはふわっとしたものであって，全ての人間が目標に向かっていったら良いのではないかという話だと思っていた。各団体がこれに向けてやらなければならないという話でもなく，色々な方がやったら良いと思う。そのため，この表現でも良いとは思っているが，どのようにして周知徹底していくかはとても大事だと思う。

半分の方は興味があって計画を見るが，あとは見ない。今，こうだ，ああだと言う方は興味があって見る人である。半分の見ない人たちをいかに同じ土俵に上げるかが大変で，市民しんぶん等の京都市の広報を見る人は本当に興味がある人。ではどうしたら良いのかというと，常日頃から発信していかなければならない。地域として，学区の人に発信していかないと，絶対分からない。それを実現するには，「餌」が必要だと思う。

例えば，地域のイベントをしたときに，簡略化した１枚もののペーパーを作って配るなどが考えられる。まちづくりの理想的な形はあって当たり前であり，意識のある人はすぐにできると思うが，意識のない人をどのようにしていくか。これは，地域の人が一生懸命やらないと駄目である。

そういう意味で，北区基本計画がすぐ分かる１枚もののペーパーが必要である。それに学区ビジョンがつながっていると思う。北区の基本計画があっての学区ビジョンだから，それらをうまく比べながらやっていけば，学区ビジョンを通じた活動ができる。

〇寺田委員

これを１枚にまとめるのは技術的にも不可能だという気がする。３ページに赤字で「北区では,「自分ごと」「みんなごと」のまちづくりの一層の推進を念頭に，区民一人ひとりの日常生活において,“つながり”が大事だとなっている」とあるが，このつながりが大事だというところがこの基本計画の肝だと思う。だからこそ，プラットフォームやインフルエンサー，まちが大事で，１人１人がやっておられること，あるいはグループでやっておられること，各種団体でやっておられること，いろんなことが積み重なって，この北区のビジョンを作り，それを発信する。北区は高齢化が３番目に進んでいる区である。こんなに自然環境が良くて，生活しやすくて，魅力がいっぱいある一方で，高齢化や人口減少が進んでいる。そこを実感し，みんなが参加することによってより良くなっていくということが表現できて, 若い人も参加していて, こういう参加の仕方があるということが分かれば, 学区の取組に参加することにつながる。自分のやっていることがまちづくりに関わっていると実感できれば，それが「まちづくり」,「つながり」であり，そのような基本計画であるということを具体的に書けると良くなる。

〇志藤座長

これまでの意見を整理する。１つは，ユニバーサルデザインの観点から色をどうするかという話であり, 検討していただきたい。４ページの②について「私たちを取り巻く環境」のところが，いきなり市域レベルの話になっており，ＳＤＧｓの１８番目にもつながってくるが，地球温暖化も災害のことも含めて，北区にもう少し引き寄せた記述が要るのかもしれない。厳しい財政で萎えるという意見については，現実を見つめながらももう少し元気になれる表現を検討していただくのが良い。このほか，４ページの一番の下のところの「ＳＤＧｓ」や「レジリエンス」という言葉は解説が必要かもしれない。これらの言葉につ

いて，このような会議に関わっている者は知っているが，区民の多くはまだ馴染んでいない。ＳＤＧｓについては，６ページでしっかり説明されているようだが，レジデンスも説明が必要と思う。また，この計画では，「まち」という言葉が多様な使い方をされているが，それは意図的に曖昧にしていると思っている。

まちづくりの「まち」，みんなでやるという「まち」，それが前半と後半で分かれている。そういう意味では，「まち」はこんな使い方なのかといった引っ掛かりがあるので，それを手掛かりにして，皆さんで色々議論をしていただけるようなことにならないかと期待している。２５ページの「子育てに優しいまちになるかも」という表現は，誤解を招かないような工夫が必要である。また，３章の各ライフステージのアクション１，２，３は隙間のバランスの調整が必要である。あとはこの計画をどう周知していくのか，あるいは，これからの５年間のまちづくりに向けて，区民や事業者の皆さんと一緒に議論できる素材にできるのかが非常に重要なことである。パブリックコメントも１つの大きなきっかけになると思うので，なるべく関心を持って色々と議論していただける機会を各メンバーでつくっていただければと思う。私も大学の授業で学生に説明をしてパブコメを集めたいと思っている。色々なところで意見を集められるようなことをやっていただけたらと思う。

〇平元委員

厳しい財政状況というのは，リアルな事実だと思うが，その具体的な対策としてイベントやにぎわいの施策などのアクションがもう少し記載されていた方が良い。商店，企業，若手の方などが，創出しようとしている未来像のようなものがもう少しあった方が安心できるのではないか。

〇志藤座長

財政状況もそうだが，課題に対して一緒になんとかしようという方が実際に北区で活動されているというのも，現状としてはある。そういうところも入れた方が良いという意見である。

〇白瀧委員

２６ページに紫野小フェスが記載されているが，来る３月２８日に船岡山の建勲神社で「ふなおか桜パン祭」を若手の方が企画して行うことになっている。コロナ禍でなかなかできなかったことをやっとやってもらえるということで，パンを買って帰るというのも応援になるので来ていただきたい。私は酒屋もしており，飲んでいただく機会を設けてもらうことが一番良い。今はできないが，コロナが明けたら船岡山を使って，どんどんやってもらいたい。機会をつくっていただけたら周りに声を掛けるし，楽しく住民も巻き込んでやっていくのが一番良い。

〇水田委員

活動している者と活動していない者の温度差は確実にある。そこの部分を意識した形で文言を入れる必要がある。「まちはこんなことに取り組みます」は，別にプレッシャーが掛かるわけではない。プレッシャーが掛かっていたらすでに辞めている。その温度差をどう詰めていくか，温度差があることを意識しながら活動していくことが大事だと思う。そう

いう人たちにどう伝えるのか，どう巻き込んでいくかが大事な視点である。一般の多くの人たちは活動について「私は知りません」となるのかもしれないが，結局は楽しくやることが全てではないか。人それぞれ楽しさは違うのかもしれないが，楽しいものをつくっていけば，巻き込んでいけると思う。巻き込む方法としてはそれが一番である。活動していて温度差を感じ，自分の熱が伝わっていないのかと反省させられることもたくさんある。だが，それが現実だと思いながら，どうしていくか考えることが大事だと思っている。皆さんの意見で文言を少し考えていくことは，難しい宿題だとは思うが，１つずつ進めていっていただければ良いと思う。

〇中谷委員

２章の１３の目標の中に，ＳＤＧｓの１番（貧困をなくそう），６番（安全な水とトイレを世界中に），１４番（海の豊かさを守ろう）が出てこない。６番の水とトイレの話はなくても大丈夫で，１４番も海がある場所ではないということだと思うが，１番が気になる。区民から「北区としてはこの貧困の問題を挙げないのか」という指摘が入らないか心配である。実際には，福祉委員の方が活動されているであろうし，こども食堂の話も出ていたし，貧困家庭対策とも関係していると思う。せっかく良いことを後押ししているので１番もどこかに入れてはどうか。

〇志藤座長

相互に関係し合っているものなので，どこに入れるかは検討していただきたい。今日いただいた意見を反映するタイミングをどうするかはあるが，概ねこれでパブリックコメントを進めさせていただくということでご了解いただいたということでよいか。また，パブリックコメントの前の修正については，再度回議を開催する時間がないことから，座長一任ということでよいか。（一同了承）

では，事務局に進行をお返しする。

〇事務局

活発な議論をありがとうございました。パブリックコメントに向けて，皆様の意見をできるだけ反映させていきたいと考えており，最終案に向けて，引き続き検討していくのでご了解いただきたい。来年度は，計画を策定後に実践していく段階になるので，引き続きお知恵を頂戴したい。本日は，長時間にわたりありがとうございました。